

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900150
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム さわらび
所在地	愛媛県四国中央市三島金子2-2079-8
自己評価作成日	平成 28年 6月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 8月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさわらびは、母体の病院と同じ敷地内にある為、24時間、病院との医療連携が可能です。同系列の老人保健施設・ケアハウス・デイケアとも連携しており、イベントなど交流が多くあります。職員も「楽しく笑顔で」をモットーに、家庭的な雰囲気与生活を送って頂けるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設16年の歴史を持つ事業所は、予防・治療・福祉・健康管理のトータル医療サービスを展開する母体病院の敷地内にあり、職員の気持ちのよい挨拶で迎え入れてくれる。法人敷地内には、病院・ケアハウス・ケアサービス・通所リハビリテーション・グループホームのほか、メディカルフィットネスがある。隣接する病院とは24時間の医療連携に加え、災害時等の緊急時における支援体制があり、日常の健康管理とともに利用者の安心した生活へとつなげている。『楽しく笑顔で』を礎として、利用者の地域での笑顔の絶えない暮らしを目指している。勤務歴の長い職員が多く、職員同士の信頼関係が構築されている。互いに思いやりをもって実務に就いており、和気あいあいとした雰囲気の中にも緊張感が感じられる。利用者は自身の体調や気分に応じて個々のペースで自由に生活できている。今後もチームでの支援力をより高め、地域と利用者をつなぐ活動や認知症の理解を深める活動がさらに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム さわらび

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

鎌倉 雅光

評価完了日

平成 28年 6月 26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「楽しく笑顔で」を理念に、職員一人一人が利用者本位の立場にたった支援ができるように努めている。</p> <p>(外部評価) 「楽しく笑顔で」という事業所理念は、目指すサービスのあり方が誰にもわかりやすい。利用者と職員はそれぞれ「楽しく笑顔で」過ごすために、毎月目標を立て実践している。理念は事業所内掲示物で周知され、日頃から意識した話合いも交わされており、実践につなげることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) さわらび周辺の散歩コースを作り、また玄関前のテラスを活用し、地域の方とふれあえるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所は母体である病院の敷地内にあり、気軽にご近所付き合いするには困難な環境にはあるが、地域の民生委員の協力を得ることができている。大きな組織力を活かし、病院やケアハウス、フィットネスクラブの盆踊りやクリスマスのイベントに参加したり、事業所前に作ったテラスで地域の住民と交流ができている。また地域のお散歩マップを作成し、地域の資源を把握することができている。</p>	お散歩マップを作成することで、利用者が大切にしてきた地域をより深く理解することができる。今後も新しく把握した情報を加えていき、利用者が地域とつながりながら暮らせるように努めて欲しい。管理者や職員は改めて事業所の役割や認知症の理解を深めたいと希望しており今後の活動に期待したい。また、足がかりとして法人内での理解を深め、地域交流へと発展させるとともに地域住民と密接な相互協力関係を構築し、利用者の生活をより豊かにし緊急時の安心感が高まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議などに参加して頂き、認知症高齢者と交流することで、今現在の様子などを見て、感じて頂けるよう報告などしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が行なっている体操などに実際に参加して頂き、できるだけ近くで交流して頂けるよう工夫している。意見も頂き、今後の課題、取り組み方などに繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者、地域包括支援センター職員、民生委員、消防署、薬剤師、母体病院や事業所職員などの参加協力を得て開催している。日常の利用者の実生活に触れてもらいながら、和やかな雰囲気話し合うことができる場を作っている。議題は調剤薬局薬剤師による薬の基礎知識講座や、フィットネスクラブ職員による健康体操など、内容に工夫がある。現状報告や情報交換だけでなく、災害対策や運営に関する振り返り、地域との交流を深めるための話し合いができています。</p>	<p>利用者の日常に溶け込んだ気軽な雰囲気作りが工夫され、運営の振り返りや意見交換が行われることはサービス向上に有意義である。今後も議題に工夫しながら多方面からの参加者や家族等の参加が得られるような取組みに期待したい。また議事録について、参加者や発言内容などが運営に活かせるよう記載内容や書式が改善されることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に地域包括センターの職員の方にも参加して頂き、意見等を頂いている。また月に1回ふれあい相談員の方からも利用者の話を聞いて頂き、意見を頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通じ定期的に顔を合わせることができている。直接運営に関する実情に触れてもらい理解してもらうことで、具体的なアドバイスがもらえている。ふれあい相談員の受入れを毎月行っており、利用者との馴染みの関係づくりや運営に関するアドバイスをもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的な勉強会や意見交換を行っている。職員も利用者の立場にたち、気持ちを置き換え、考え取り組むよう努めている。</p> <p>(外部評価) 対象となるケースはなく、全職員に身体拘束をしないケアが根付いており、実践できている。玄関はセンサーを活用し日中開放され、居室内の施錠もなく、利用者の自由な暮らしを見守りで対応することができている。身体拘束をしないケアについて、不安な点などがあればその都度職員間で話し合いが行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員間で日頃から意識して支援に努めている。気になることがあれば、すぐに言うように徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的に勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際にも、利用者本人、家族の方が何でも言いやすいようなアットホームな雰囲気作りを心がけ、不備のないように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族や知人が面会に来られた際には、必ず近況をお伝えし、要望などあれば聞くようにしている。要望があれば職員全員が把握し、ケアプランに取り入れるようにしている。しかし外部者へ表せる機会が少ない。	
			(外部評価) 重要事項説明書により事業所内外の意見受付先について説明している。利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。家族等には面会時、電話連絡、請求書や毎月発行する新聞などのお便りの機会を活用して意見を伺っている。利用者や家族等から気軽に要望が表されている状況にある。意見や要望は職員間で共有し、利用者と家族等の関係性にも注意しながら介護計画書に反映したり、改善を検討することで運営に活かすことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回、カンファレンスに職員全員参加し、意見交換など行っている。管理者も他の職員と同じ勤務体制である為、話しやすい関係作りができています。 (外部評価) 職員間には良好な関係が構築できており、毎月のミーティングの機会や申し送り、日常業務の中で話し合いの場面は多々設けられている。管理者もシフトを共にしており、職員の実情に理解がある。職員面談を年2回実施し、ケアの実際と力量、今後の目標や課題などの思いを理解することに努めている。法人も育児休暇や労働時間などの就業環境の整備に努めており、長く勤務する職員も多く、働きやすい環境があると職員は実感している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に1度職員が自己評価を行い、個別に話す機会を持ち、普段言いにくい事など発言できる場を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会があれば、積極的に参加するよう促している。また、定期的な勉強会や普段からの実践を活かし、資格取得を目指している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内の定期的な会議で、情報の共有、意見交換を行っている。また、定期的に市内のグループホームが集まる交流会に参加し、意見交換を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査などの際には、会話の中で何気ない表情も見逃さず、本人の思いを第一に考え接することを徹底している。遠慮しない雰囲気作りも心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の思いも大切に、何でも言えるような雰囲気作りを心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 会話の中でも、言いにくい部分もあるので、何気ない事を見逃さず、また表情から感じることを大事にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、自分の親、人生の先輩であるということを忘れず、家庭的で家族のように接することを大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には、近況を必ずお伝えしている。その際、要望があれば聞いている。何気ないことでも報告し、また来て頂くようお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所があれば、出掛けた際には通るようにしたり、昔の事を尋ねるようにしている。友人が来られた時には、また来て頂けるような声掛けを行なっている。 (外部評価) 入居前の生活状況など情報把握に努め、利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、事業所に入居するようになってからも継続できるように努めている。高齢化により頻度は減少しつつも古くからの知人が訪ねてくれたり、家族の協力を得て自宅に立ち寄ったり、外出する利用者もいる。またお墓参りを定期的に希望する利用者など状況に応じ介護計画書に反映することで、利用者と馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) その日その時の状況に応じて対応し、できるだけ皆と過ごす時間が多く出来るよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設などに移る際には情報提供をし、不備のないよう徹底している。家族の方にも気軽に相談して頂けるよう声掛けを行なっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員は常に本人の立場にたった支援を心掛け、何気ない発言も見逃さず、何かある場合には職員全員が把握し、話し合い、ケアプランに取り入れたりしている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、その都度職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるよう検討している。介護記録には利用者の発言や様子が誰にもわかるよう記載され、職員間で思いを共有している。職員は利用者個々とじっくり向き合えるように支援している。利用者個々の持つ病状や日々の状態に合わせて、無理強いせず本人本位に検討できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の契約などの際に事前に生活環境や馴染みのものを把握し、ケアプランにも取り入れるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今、本人にはどれだけのできる力があるのかを把握し、残された力を出来る限り発揮できるよう、日々の暮らしの観察、声掛けなどを職員全員で大切にしながら取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 個々に担当を決めチェック表を作成し、月に1回見直しなど行なっている。家族が面会に来られた際には現状をお伝えし、何か要望などあればお聞きし、職員全員に伝えとともに、ケアプランに取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 介護支援専門員が中心となり介護計画書の作成、毎月のモニタリングを実施している。生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思い、職員のアイデアを取り入れ、それぞれの意見やアイデアを介護計画書に反映させるスピードが非常に速く、手厚さを感じられる。介護計画書に基づいた実施記録は日々チェック表で確認でき、利用者の発言や状況が明確に介護記録に記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員全員が把握できるノートを作成し、意見やアイデアなどあればそこに記入し、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 定期的な外出・外食に限らず、お墓参りやちょっとした散歩など、本人のその時の気分や状態に応じて支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市が主催している音楽会や美術展の参加や、地域でのイベントがあればできるだけ参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の方が希望の病院でなければ、母体の病院にかか り対応している。	
			(外部評価) 利用者は協力医療機関である母体病院をかかりつけ医として 利用し、24時間体制での医療連携が図られることに安心感 が感じられる。加えて母体病院看護師の週5回健康チェッ クがあり、連絡ノートで情報を確実に共有することででき ている。専門医や希望する医療機関の受診は家族の協力を 得て支援され、緊急時は職員が同行し適切な医療を受けら れるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 母体の病院の看護師の協力もあり、何かわからない事などあ ればすぐ相談、受診ができるよう対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、母体の病院のワーカーの協力のもと、迅速に 対応できるよう情報提供し連携している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関しては現在行っていない。重度化した場合には母 体病院と連携し、本人・家族・医師と相談し今後の方針を決 めている。	
			(外部評価) 看取り支援は実施していない。重度化した場合の支援につ いて、事業所としてできることを説明し、利用者や家族等の 希望を把握している。母体病院や老人保健施設などへの受 入れ先の相談に乗っている。利用者の状況に応じてその都 度迅速な対応ができるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体病院での定期的な勉強会に参加している。また、定期的にマニュアルを見直している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に1回、防火避難訓練を行なっている。訓練では担当を決め、全職員が対応できるよう努めている。また、母体病院の協力もある。	
			(外部評価) 年2回、消防署立ち合いの訓練を実施し、専門的なアドバイスを受けている。火災や地震災害を想定した訓練を、母体病院職員や民生委員の参加を得て利用者と共に実施している。運営推進会議でも議題に取り上げ、振り返りを行いながら次の訓練に反映するように危機感を持って取り組むことができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員全員が個々の性格を考慮し、声掛けなど工夫しながら対応するように徹底している。	
			(外部評価) 利用者の目線に立ち、わかりやすく優しい声かけや一人ひとりの状態に応じた対応に努めている。個人情報の取り扱いについては書面をもって説明し、同意を得て適切に対応している。毎月発行される新聞や記録物などにはイニシャルで記載する配慮がある。排泄や入浴時の羞恥心への配慮が特に重要となる場面での対応では、同性介助など注意をはらうことができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かする際には、必ず問いかけるよう徹底し、本人の意志を第一に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の性格を考慮し、その日の気分や状態をしっかりと観察している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望があればヘアカラーも行い、髪に分ける方向にも気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本的には昼・夕食は病院の厨房から頂いている為、利用者の状況に応じて、職員と一緒に配膳や準備・片付けなど行っている。	
			(外部評価) 母体病院の栄養士が栄養バランスのとれた献立を作成し、糖尿病対応食など症状に応じた病食に対応できている。朝食は事業所で調理し、昼食と夕食は病院の厨房で一括調理されている。利用者の食の好みや希望をアンケートで把握し、献立に反映されるように努め、誕生日などのイベントにはたこ焼きやおやつ作りなどで利用者と共に調理することを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体病院の管理栄養士により、個々に応じた食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 出来る限り自力で行ってもらい、状況に応じて見守り、介助を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄が困難な方でもできるだけトイレ行くよう支援している。また、本人の性格を考慮し対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者の残存能力や機能回復に考慮した取組みが実施されている。利用者の希望や習慣により、ポータブルトイレの使用が継続できるよう努めている。排泄の状況について職員間で共有し、個別に誘導や介助ができています。トイレでの自然排泄を大切にし、無理なく排泄支援が実施できるよう習慣や用品の選定を工夫し、自立にむけた支援に取り組むことに努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘がひどい場合には病院を受診し、医師と相談し調整剤など処方してもらっている。普段から水分量、食事量をチェックし、便秘予防に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴は基本的には自由になっている。(夜間・イベント時は除く)</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴支援を基本にしているが、状況や希望により毎日でも入浴することができる。個別浴槽を使用し、2人介助などで可能な限りの支援に努めている。入浴が苦手な利用者は現在いないが、苦手な利用者には誘い方や対応の工夫をし、無理強いすることなく入浴が楽しめるよう配慮する姿勢を持っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 何気ない表情を見逃さず、本人の性格を考慮し声掛けなど工夫し対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更がある場合には、必ず職員全員が把握できるよう、掲示している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居時に本人の趣味・特技・以前の仕事など聞き、日常生活を送る際に本人と相談しながら役割に励んでもらえるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的な外出の他に、気分転換を兼ねた散歩など、その時の気分に応じた対応をしている。人手が必要な場合は他部署にも協力してもらっている。	
			(外部評価) 季節ごとの花の鑑賞に地域に出かけることは利用者の恒例の楽しみで、年間を通じて多所へ出向いている。日常的には希望や状態に配慮して、買い物や散歩を実施している。地域の資源や情報をお散歩マップにまとめ、日常の生活に活用している。利用者個々の希望には個別対応し、お墓参りや自宅への帰省などには家族にも協力を得るなど支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が難しい方は職員で管理し、預かり手帳を作成している。買い物の際には、値段を伝えたり、会計はできるだけ本人でできるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望がある場合には、ホームの電話を利用して頂いている。また、定期的に家族の方に手紙を書いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには畳のスペースがあり、冬にはコタツをしている。玄関前にはテラスがあり、天気の良い日には食事やお茶を飲んだりしている。また、玄関や庭に季節に応じた花や野菜を植えている。</p> <p>(外部評価) 利用者が自由に集うリビングには畳コーナーがあり、事業所前には地域の人と交流が楽しめるテラスを設け、ゆったりとした時間や気持ちを休める場所がある。清掃が行き届き、清潔な生活空間となっている。お知らせなどの共有すべき情報が掲示され、居室前は手作りの飾りで彩りが感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 個室以外で、廊下やフロアに椅子やテレビを設置し、自由に使用できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の馴染みのあるもの以外にも、ホームで生活を送っていく中で、好きになったものや、自分で工作したものを飾るなどしている。</p> <p>(外部評価) ベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備えられている。使い慣れたものを自由に持ち込んでもらえるよう声をかけをし、自由なレイアウトで居心地良く過ごすことができる。清掃や臭気にも配慮し、利用者の習慣や状態に応じて職員がさりげなく支援している。季節毎の衣替え時期には広報誌などで告知し、さりげなく協力を仰ぎ支援することができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室やトイレなど、名前や目印を付け、できるだけ自分で行けるよう支援している。</p>	